

1月給食だより

令和7年1月
池田市立学校給食センター



あけましておめでとうございます

新年を迎え、気持ちも新たに3学期が始まりました。
1月の給食ではさまざまな行事食が登場します。
行事食について知り、より楽しく給食をいただきましょう！

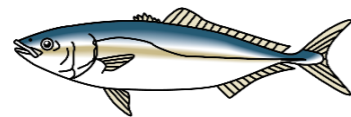
～おせち料理に込められた願い～

雑煮



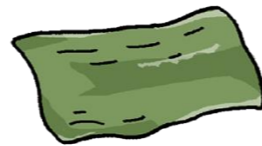
めでたい日に食べる汁物です。昔の人は、農作物の収穫ができたことに感謝していただきました。

ぶり



体が大きく成長していくにつれて呼び名が変わる「出世魚」です。

昆布



昆布は「よろこぶ」という言葉にかけた縁起のよい食べ物です。

10日(金)は、「お正月献立」です。
白玉雑煮、ぶりの照り焼き、かみかみ昆布が登場します！

1月24日～30日は、全国学校給食週間です！

学校給食は、明治22年、山形県のお寺の中にあった小学校で提供されたのが始まりとされています。その後、各地に広まったものの、戦争による食料不足で中断されてしまいました。戦後、子どもたちの栄養不足を改善するため、昭和21年にアメリカの支援団体から、給食用物資の寄贈を受けて、学校給食が再開されることになりました。

全国学校給食週間を通して、学校給食の意義や役割などを知り、学校給食についてあらためて考える機会にしましょう。

学校給食の移り変わりを見てみよう！

明治22年	戦後(昭和20～30年代)	現在
<p>おにぎり、焼き魚、漬物など</p>	<p>脱脂粉乳、缶詰、パンなど</p>	<p>地域でとれる食材を取り入れた、郷土料理や行事食、世界の料理など</p>

24日(金)から30日(木)の給食は、「給食の歴史」を時代ごとに体験できる献立です！

阪神・淡路大震災から30年

災害時の『食』を備えましょう

1995年1月17日に、阪神・淡路大震災が発生しました。寒さが厳しい中、被災した多くの人たちを支えたのは、全国から駆け付けたボランティアの方々です。このことがきっかけとなり、災害時におけるボランティア活動と災害への備えを大切にすることを目的に、「防災とボランティアの日」は作られました。阪神・淡路大震災の発生から今年で30年となります。令和6年元日に発生した能登半島地震が記憶に新しいですが、この30年の間にも各地で大きな災害が頻発しています。一人ひとりが自分の命は自分で守ることを意識し、普段から備えをしっかりとしておくことが大切です。

災害時の食の備え

★非常食・日常食品・持ち歩き用品の3つを備えておきましょう。水と熱源は必需品です。

そのまま食べられる

非常食



アルファ化米、缶詰、レトルト食品、菓子類など

ローリングストックで備える

日常食品



お米、乾麺、乾物、日持ちのする野菜・果物、調味料など

外出時の

持ち歩き用品



飲料水、チョコレート・あめなどの菓子

水は調理用も含めて1人1日3リットル必要とされています。できれば1週間分備えておくと安心です。

1人1日3リットル



カセットコンロとボンベがあれば、温かい料理を食べることができます。あらかじめ使い方を確認しておきましょう。

災害発生直後の食事

避難所などへ避難すること考え、1日分の飲料水と非常食を、非常用持ち出し袋等に入れておきましょう。家にとどまる場合は、冷蔵庫・冷凍庫の中にある腐りやすいものから食べ始めると、食品を無駄にせず済みます。

家庭で備蓄リストの作成を！

家族の好みや状況によって必要な物は異なります。家庭で備蓄リストを作成し、必要な物を準備しておきましょう。



赤ちゃん用ミルク、食物アレルギー対応食品、介護用食品など

17日(金)は、「防災とボランティアの日献立」です。
わかめごはん、豚汁、カンパン、さば缶の炒め物が登場します！